

令和2年度 西砂学習館運営協議会第5回（令和2年10月）会議録概要

日 時：令和2年10月20日（火）午後6時～9時00分

出 席：大橋 加藤 広瀬 進藤 森 増田 小笠原 小林 岩元

事務局：石川 俣本

欠 席：長谷川

1. 開会のあいさつ

大橋：急に寒くなり冬服を急いで出さなくてはならなくなりました。私事ですが11日に発熱し体温が38度を超えた。コロナを疑い、寝ていても寝てられない状況だった。病院で抗生物質と解熱剤を頂きようやく普通に帰った。コロナに感染して村八分になってしまう等色々な事を考えてしまった。コロナに感染していなかった事を感謝した。

2. 令和2年度地域活性化講座について

(1) 「西砂川での災害を考える」〈第5弾〉コロナ禍での避難所の運営について

石川：防災課と打ち合わせをして講演依頼をした際にコロナ禍での避難所運営等について異議が出た。避難所運営＝防災課（市役所）ではなく、避難所運営は地域の市民防災組織が行い、防災課は避難所に備蓄物資を届けるだけで、運営については地域で決めることが必要とのことだった。防災課は地域で決めることに対して地域の市民防災組織を飛び越えて話すことは関係性上差し控えさせて頂くとのことだった。

横田基地の水槽から大雨の時に流れてくる水を止めてくれたことの講演は防災課ではなく、道路や下水の管轄になるかもしれないと不知の旨を伝えられた。防災課からはいきいき立川出前講座の「これからの防災対策について」を薦められた。立川市地域防災計画に規定されている立川市の防災計画を元に災害対策における自助・共助・公助の連携や市民防災組織等について説明をするとのことだった。市民防災組織等のところで避難所運営等に触れてくれると思う。

地運協で話す内容を指定するのであれば具体的なことを事前に固めてきて欲しいと伝えられた。私は防災課勤務を経験したことがないので、避難所運営を市民防災組織が取り仕切る事も知らない中で話す内容をまとめて欲しいと言われても難しいところがある。私の考えと提案として、いきいき立川出前講座の内容で、質問コーナーを設けて、地域特性を聞いてみたらと思うがどうか。

増田：全くおかしいと思う。防災課は立川市全体の防災を考えるはず。この内容だったら防災課はいらない、出前講座としてのこの内容での防災課の話はダメとして頂きたい。市民の目から見たら備蓄品を配るだけの防災課は必要ない。役所的な発想は時代にそぐわないと思う。防災課にそのような内容での出前講座を要請してほしい。横田基地から水が流れてきたことは他部門の問題なので知りませんと話すことについて防

災課は無責任と感じる。立川市は首都圏の防災基地なのだから防災課長がそのように話すことは問題だと課長に伝えてほしい。

岩元：避難所とは地域の住民が自主的に運営する、地域に合う避難所運営は地域の方達に任せていることは自治会の防災担当の者は考えを一つにしている。中身まで話せないことは理解しないとイケない。

石川：質問コーナーで西砂のことについて防災課長に聞いてみたいと思う。

増田：問題を解決する目的で、問題を共有する為の出前講座開催なら良いと思う。

石川：立川市の方針について教えてくれるので広域防災基地があることを前提に防災計画を作っていると思う。計画について説明して貰うと概要が分かり他に市民防災組織のことも話して頂くと、避難所運営する人達の大枠が分かり次に西砂地域についても質問の中で細かく聞いてみたいと思う。

大橋：質問の中で西砂・一番について特化した形にできたらと思う。

加藤：増田委員と財政を考える会で毎年二回財政部長や係長と講演を行っている。出前講座の内容と若干違う内容で依頼書に記載しお願いしている。

石川：依頼書に西砂地域特有の内容も話してほしいと記載すれば良いのか。

加藤：財政を考える会ではその様に進めたし、もう少し柔軟に対応してほしいと思った。

石川：出前講座の中で西砂地域特有の話もして貰いたいと特記に記入しその方向で防災課と話を進めていく。

大橋：講座の前に大山小の訓練があるのでその様子や反省点も話してくれたらと思う。

広瀬：知りたいことは訓練の様子や反省点で普通の防災講座は何回も行っているので、一般的な内容は行いたくないし西砂のピンポイントのことを知りたい。

岩元：毎年地域の小学校で順番に訓練を行っているが今年はコロナの影響で無いので、課長は含めて話をしてくれたらと思う。

(2)「気軽に学べる認知症予防講座」について

大橋：10月24日(土)の10時～11時30分に開催予定で委員の出席は私、進藤委員、長谷川委員、広瀬委員、増田委員が参加予定。各委員の集合は9時30分。

岩元：包括支援センターから話を頂き、最後に身体を動かす歌や体操を行うことになった。

(3)「地元を学ぼう！西砂の野仏を訪ねて」について

大橋：本日から先行受付が開始された。開催は11月28日午後1時30分から4時終了予定。委員の出席予定は大橋・岩元委員・広瀬委員・加藤委員・森委員・増田委員。

(4)「にしすな夜間塾」(第4弾)について

大橋：11月20日(金)午後7時～8時30分に開催予定で講師はスポーツシューフィッターの染谷晴久氏。出席出来る委員は大橋、進藤委員、岩元委員、加藤委員、広瀬委員、小笠

原委員、増田委員。集合は6時15分。

小笠原：石川係長を通じて講師とやり取りをした。委員からの質問に対してはその場での質疑応答で対応していく。

(5) その他

加藤：「地元を学ぼう」の集客があまり良くないので新しい家にチラシをポスティングする等必要に応じてアクションを起こしたらいいと思う。

石川：AIMで開催した時にはとても人気講座であった。西砂川地区の人に先行予約を開始したが、AIMで開催した時には西砂からの参加者はいなかったの、一般の募集開始となると違う地区の希望者が沢山申し込んでくれるかもしれない。

大橋：西砂からの希望者が少なかったら対応策を考える。

3. 協議、報告及び連絡事項

(1) 前回の議事内容の確認（議事録）

大橋：何かあれば事務局へ。

(2) 学校地域コーディネーターとの連携について（協議）

石川：11月の運営協議会に参加して頂けないか、または11月中に運営協議会委員とコーディネーターとの話し合いの場が設けられないかの旨で大橋会長と話し合いをしたが、11月中は難しいとの結論に至った。11月中の働きかけを行うが会議は難しいと思うので、大橋会長作成の資料を元に検討したい。

大橋：石川係長作成の資料を読み趣旨を理解して頂けたらと思いながら作った。第7中学校区内の3校の学校長及び地域学校コーディネーターに地運協との連携の趣旨について理解と協力を仰いだらと思う。

立川市の第3次学校教育振興基本計画や学社一体に向けた取り組みにおける地域学習館の在り方について答申等で述べられている。これからの学校教育においてはより充実した地域との連携や関わりの中で人材育成をすることが強く望まれている。その取組の中で各学習館の役割が強く期待されていて、地域学習館運営協議会のメンバーと組織が学校と地域のパイプ役である地域学校コーディネーターとの話し合いを持ち、学校を核とした共同の取り組みを通じて地域の将来を担う人材の育成と自立した地域社会の基盤づくりに繋がればと願っている。話し合いを進めていく上で学校長の学校経営方針や教育指針等の考えの話を伺う機会があるかと思うが、その節には協力をお願いします。

上記の様な活動を行うには学校と地域の双方で連携・協働の活動に繋がるといような推進するための組織的・継続的仕組みの構築が必要。学社一体に向け地域学習館としての役割も担っている都合上、これからの話し合い、情報交換会、意見交換

会等の推進役として薦めていきたいと考えている旨を整えて鑑文としたら良い。

次に今後の進め方として文書送付先の学校長、副校長及び地域担当の先生や地域学校コーディネーターへ趣旨等への理解、ご協力、依頼の文書を添えて中に石川係長が作成した文書を入れる。地域学校コーディネーターには会議日程の調整表を入れ、日程を決められたらと思う。時間は午後 7 時から 2 時間で場所は学習館を予定。参加者は地域学校コーディネーターと西砂地運協の委員と第 7 中学校と松中小の学校運営協議委員と、事務局にも記録を取る必要があり参加して頂けたらと思う。地運協の会議とは別に設ける。

文書を学校に出して回収して日程が決まり次第、第 2 回目の学校地域コーディネーターとの連携に向けて文書を発送する。その時に話し合いの内容もプロットを載せた形でご案内を出す。会議で話し合われた内容については学校とコーディネーターと地運協のメンバーと地域住民に会議録の文書で主だった部分を知らせていく形で進めていけたらと思う。石川係長と充分話を出来なかったが上記のような形で話を進めれば校長先生も本気で動いている、動いていくと感じ、またコーディネーターが学校と上手くパイプ役になってくれたら情報が上手く流れていくと思う。

市内 6 学習館がある中で他には学校地域コーディネーターとの連携に向けて動き出しているところはないので先進的に感じていて、このような形で手順を進めていけたらと思う。増田委員からも意見を頂いていたが別に会議日を取って話を共有出来たら良い。中身の進め方でセンター長に来て頂いたり、話によっては学校長にも来て頂いたりすることがあるかもしれない。柔軟に中身を考えながら地域と連携が出来たらいい。何年かかるが分からないが顔が見える関係が出来ないと話が進んでいかない。困っている時に気軽に相談出来るような関係が作れる方向で 2 回目の会議が出来たらと思う。

加藤：私の知っている範囲では西砂以外まだアクションはない。西砂学習館が先行して各学習館に実例を挙げられたらいい。

大橋：意図をしっかりと持たないと話し合いが話し合いにならないのではと思う。物事を生み出す為なのでしっかりとした方向でいかないと形になるのは難しいと思う。

岩元：学校も地域学校コーディネーターの方も地運協が話している中身について考えてくれている訳ではない様な気がする。地域学校コーディネーターの方は何をしたら良いかやどういう方向で動けばいいのかを良く理解されていないと感じる。教育委員会等から地域学校コーディネーターへの支援や指導の機会がない様に思う。学社一体は新しい考え方なのでまず色々な情報交換から始めることが必要と感じている。

大橋：地域学習館の役割と学社一体の役割でこんなに頭を悩ませると思わなかった。地域学習館は学社一体のパイプ役として重要な役割をしている。学習館が持っている物的、人的な物を活かしながらこの地域を何とかしていかなくてははいけないし、別枠で会議を設けないと形になっていかない。

増田：教育委員会、校長会は密接に連携している。良い中学校長先生がいれば上手くいくけれど代わった時には連携の後退がありうる。地域学校コーディネーターとの連携を教育委員会にしっかり伝えて校長会を通じて押さえ、また学習館係長や学校長の異動で話が終わってしまうことが多くあることも踏まえて置くことから活動をスタートさせないといけないと思う。

石川：人に頼らずに組織として対応する形が必要。

増田：地域の方達と行政が組織として対応することが大切。他の組織と連携して立川市教育委員会と接して来た時に相互理解が深まってきた体験からそのことを痛感している。この活動を市の組織運営体験として残し、継続していくことをお願いしたい。

大橋：西砂の人材を使って学校との連携をしていく訳だからそれぞれ一人一人の力を借りていかななくてはいけない部分で、話し合いをしたことを広く広報していくことでエリアとしての大きなうねりに繋がればと思う。広報として出していく事が地域の活性化に繋がる。

(3) 西砂運協（学習館）が発行する情報誌のネーミングについて（協議）

大橋：前は岩元委員が欠席のため保留にしていた。岩本委員からの案「西一元気通信」に決定。「西砂学習館だより」等の発行元も記入する必要がある。

広瀬：洒落たネーミングがいいとの話もあったが、誰からも簡単に分かるものが良い。

大橋：インクがにじまない厚さ、A4紙で両面印刷、年2回発行。必要があれば号外。年2回発行にすると何が載るのかと思う。

広瀬：内容は報告だけではなく告知も半分程度記事にしたらと思う。どうしても報告が多くなってしまうように感じる。

大橋：森委員に表題になるようなアイデアを横書きで考えてほしい。

森：ワードソフトを使ったよくあるロゴみたいな形になってしまうかもしれない。

石川：アルファベット表記もあるので横書きがいい。

広瀬：パソコンで作ることも良いが、筆書きで書くのも良いと思う。今回豊泉先生に講座をお願いしているので豊泉先生に依頼も良い。

大橋：生涯審の答申を見ると地域学習館が積極的に広報を薦めているので、西砂学習館でも推進していこうと思う。

(4) 第41回西砂学習館まつり開催に向けて（報告・協議）

石川：毎年まつりの準備は11月から始まり、同じサイクルで進めていく。11月からは新規参加団体、サークルの募集が始まる。2月に第1回目の実行委員会を開催予定。今までは事務局（西砂学習館職員）が中心になっていたが、今回からは実行委員会形式で、実行委員長は和太鼓「市の一」の山田さん。発表会と展示会にそれぞれ副実行委員長をして貰い、役員は3人体制になっている。

基本的に参加団体は沢山は増えないと思うが、今回は体験教室に力を入れている。まつりの当日に行っても良いし、団体・サークルの活動日に体験教室を行って頂ければ新規会員の募集にも繋がるし、まつりの実績も増えていく。今までは館内に掲示するだけだったが、参加団体は必ず学習館の利用時に受付に来るので、個別に募集チラシを配った上で体験教室を薦めていく形にしたいと思っている。パネル展示で西砂学習館地運協の参加の旨の確認を取りたいと思う。

大橋：地運協の参加はパネル展示で大丈夫か。パネル展示以外で喫茶室等の参加出来るスペースはあるか。

石川：毎年「たのしいパンづくり」が喫茶室を第一実習室で開いてくれているが、当面同様には実施出来ないと思う。高松学習館と同じく物を作らず軽いお菓子を配るだけにして、お茶を出すだけならコロナ禍で行っても良いと思う。高松学習館のまつりではご意見を葉っぱの形の紙に書き、まとめて木の形に掲示していた。

大橋：まず委員がブースを持って一日行ってみたいかどうかと思う。今までは地運協をPRする為にパネル展示で参加していたが、実際には新たなスペースは無いのではないかと思うが、パネル展示以外で何か行うか。

岩元：学社一体の基本的な考え方がまだまだ周知されていないと思う。学校教育で時代が変わる中で地域が一緒になって皆で教えていくことの方が変わっていく経過や地運協で話している事の一部だけでもPR出来たらと思う。学習館に少しでも知ってもらえて、少しでも興味を持ってもらえたら良いと思う。

石川：地運協を巻き込んだり、取り込んだりする時期に地運協に協力してもらうことは別にして知って貰えれば次のステップにいくと思う。

広瀬：新たなスペースは取れないと思うからパネルの代わりにしたら良いと思う。学習館まつりをもう一日、またはもう一回行うことは可能か。

石川：まだ、実行委員会を行っていないので変更は可能と思います。

広瀬：実行委員会のメンバーに地運協の会長は入るか。

石川：地運協のメンバーにどなたか入って頂きたい。

広瀬：以前にいきさつがあり西砂だけは利用者に学習館まつりの進行を任せてきたが地運協としてはまつりの団体が一生懸命にやってくれているし、スペースの関係も有るのでずっとお願いしてきた経緯がある。まつりの団体は地運協が入ってくると嫌かもしれない。地運協として学習館まつりは地運協が中心となっていけないといけない。これから学社一体の話があると地運協中心の話は必然となると思う。

森：人材バンクや人材募集のコーナーを作ったら良いと思う。その場で何か出来なくても気軽にブースで連絡先を書いて貰うだけでも何か行うときに個人の登録でも輪が広がっていくと思う。今までとは違う人材の集め方が出来ると思う。

小林：以前は参加団体が多くて募集どころでなかった。この頃になって少し空きが出来た。

石川：以前はくるりんの控室として第二実習室を利用していたが、下の控室を使うので一部

屋空きができる。

大橋：まつりの中で学社一体について知って頂く、実際には発表者が地域の学びの人材として繋がっていく形は確かなことになる。次の実行委員会の時に役所の職員が学社一体と地域の子も達を育てる話をして頂けると自分の学びだけでなく、学んだことを地域に還元する動きになっていくと思う。学習館が絡むことは人的なもの、場所的なものを持っているわけだから実際活動に繋がる要因を持っていることになる。

コーディネーターや学校と連動しながら次世代を担う子ども達を育てることになる。学んでいく人たちがこのような意識を持って生涯学習に取り組んでいるのかを聞いたことがないので呼びかけなくてはいけない。学社一体の動きに地運協として関わらなくてはならないし、その為の多くの人の力が必要になって来るのを知って貰わなくてはならない。

小笠原：学習館まつりの参加団体に地運協のことを知って貰えていない。本来は地運協が主導するわけではなく先ず山田実行委員長等に投げている訳なので、立てた上で西砂学習館そのものが学社一体を推進していくとなれば学習館に所属しているサークルの方達にもぜひご協力頂きたい。例えば写真・陶芸サークルにコーディネーターして頂き、各部屋に学社一体のスペースを用意し来館されたお客様の目に留まるポスター掲示を、発表会の時間が余った時のつなぎに、司会に学社一体のアナウンスをして頂く等。学社一体を皆さんに意識して頂く役割で地運協が学習館まつりに参画していくこともありだと思ふ。

広瀬：サークルは抵抗があると思うので十分注意しながら行う必要がある。

小笠原：あくまでも依頼の形で行い、叶わないのであれば地運協のパネルに人材バンク紹介で良いと思う。学校コーディネーターが何を求めている地運協の委員が繋いでいく具体的な内容が見えないと、人集めだけになってしまうので条件としては2月までに学校コーディネーターとの具体的な話が進んだ上になると思う。

(4) フリースペースについて (報告)

小林：報告はないです。

(5) 報告及び連絡事項

加藤：増田委員、広瀬委員と財政を考える会での出前講座を10月24日(土)に行う予定。出前講座のテーマとの若干の違いを申請書に記入して行っている。

市民推進委員会として7月から講座を再開。クラシック音楽入門講座、森委員講師のパソコン講座、西砂の野仏を訪ねて講座が西砂に集中した。来年度の講座も検討を開始しているので森委員講師のパソコン講座とこいけけいこ先生のクッキングも各学習館で行いたいと思う。各学習館で講座を行っている中で西砂はサポート、協力が素晴らしく感謝している。

広瀬：この地区は武蔵村山市と関係が深い。60歳代～70歳代には武蔵村山市に住んでいた人をお嫁さんにした人が沢山いる。武蔵村山市で今までは観光協会がなかったがやっと出来た。名称は武蔵村山市観光まちづくり協会で2～3日前に正式に発足。関係が深いので武蔵村山市観光まちづくり協会に注目していきたいし、出来ることは協力していきたい。

進藤：立川社協もPRを強化するためにYouTubeへの動画アップを積極的に取り組んでいる。最近WestWaveが「コロナに負けない体をつくろう」の動画を3本アップした。スマホやパソコンから見られるので是非活用して頂けたら嬉しい。

小笠原：今年度中は食を提供することが出来なくなった。しばらくは難しいと思っている。付随して大きなまつりやフェスティバルは児童館で恐らく出来ないと思う。子ども達はどうしても大声が出たり、密集をしてしまうのでリスクもあり、市内学校でもコロナの陽性者が出たのでまだストップしている印象ではある。その中でも出来ることを再開しつつある。定員は申込初日に埋まってしまい子ども達がレクリエーションに飢えていると痛感している。子どもまつりだけは何とか行いたいと職員たちと悩みながら動いている。再開出来た行事の一つとして今月末にハロウィーンフェスティバルがある。本来地域に出たり学習館にお邪魔したりしてお菓子を貰う事を団地の方や企業の方からご協力頂きながら行っていたが、一切出来なくなり今回は館内で迷路の形にしておばけや妖怪たちを探してみようという内容でどうにか行う。

子ども達は良くも悪くも元気。いたずらしたりトラブルも起きているが児童館にくる子ども達が学校でも家庭でも見せない顔を児童館で見せられると思いながら変わらず一日中いる。居場所になっている思いを大事にしながら運営を続けている。児童館の利用数も学童が60人、ランドセル来館20人、一般は30人程度になっている。100名ちょっとが1日の利用数でコロナの感染者を出さずに運営したいとの思い。中高生も在籍していた子ども達がテスト期間以外友達を連れて来てくれる。

岩元：文化会は明後日三役会を開き来年1月のうどん作り大会の可否を決める。うどん作りは密になるので開催は難しいと思う。青少健は11月3日(火)に中学生の主張大会を12時30分から予定。保護司会は社会を明るくする運動の一環で映画会「あの日のオルガン」を来年3月7日(日)にアイムホールで予定。アイムホールは狭いので朝・昼・夕の3回公演を考えている。コーラス槐は中止期間が長かったが少しずつ再開しているところ。

小林：フリースペースは中止になりあと少しで一年になる。フリースペースが再開出来るようになって自身もダメになってしまうと思ったり、いろんなことを考えている。人気があっただけにフリースペースを絶やしたくないと思っている。

小笠原：フードパントリーで地域の料理家に毎月協力頂いてレシピを入れていることが好評で子ども達も私たちが主導するスイーツクッキングのレシピを必ず欲しがらる。小林委員の料理の資料、ご飯の握り方等のコツを子ども達に配布出来れば、地運協の事

業の一つとして出来れば子ども達も保護者も喜ぶと思う。

小林：料理の資料、コツを伝えるよりも相手がある中で一緒に料理を行いたい。

進藤：社協では動画を YouTube にアップしている。災害時用の火を使わない簡単調理を料理家の先生とタイアップして、動画配信出来たら良いなと話があった。

森：西砂パソコン倶楽部では先週講座を開き、加藤委員の協力の元無事に終わった。12～13人位の参加。毎月実施の講座には10人以上が参加してくれ嬉しく思う。内容は生活に使えるような題材。来月は年賀状に向けて写真の編集。また、今流行りのペイペイやマイナポイントのパソコン機械だけではなく、関係する話も入れながら上手に使い失敗のない様なちょっとしたヒントを、少しずつ話していきたいと考えている。

増田：たちかわ・財政を考える会では、学習会を10月24日（土）に行う予定。財政課長の「平成31年度立川市決算報告」が議題。市民がどの様に行政の内容を理解しているかを参加者が質問する。地元の「新聞を読む会」に呼ばれた市議会議員が来て総務委員会で討議されたことについての質問を受けていた。コロナで明らかになってきた市民の為になって動けるような行政を目指し、次の世代に繋げることを考えていく。森委員のパソコン講座をした。分かり易くてとてもありがたかった。

石川：第一教室にも新たに飛沫防止用フィルムを設置した。視聴覚室だけに設置していたがサークルから希望があり新たに作成。学習館内の部屋の物片付けを積極的に行っている。眠っていたステレオを1階の和室に設置。とても良い音がでる。

図書館寄りの壁に以前は絵が飾ってあったが、移動し福祉系のチラシや掲示物を集中させた。進藤委員は幾つかあると思うので持って来て頂ければ分かり易い様に福祉コーナーに掲示したい。高齢福祉課の広報物や子どもが見る配架物も煩雑になってきているので整理していきたい。

毎年2月に地域運営協議会の交流会があり前回は砂川学習館で行った。本来なら西砂学習館が担当だがコロナで今年は中止になる予定。寿教室の芸能フェスティバルも中止となり、皆が集まることを全く出来ていない。早く収束してくれることを願うばかり。

次回 11月17日（火）18：00～